

市長が行く

温暖化の脅威に思う

No.116

茂原市長 田中豊彦



昨年、茂原市は、度重なる大型台風による大雨や強風で甚大な被害を受けました。

その後の対処に時間を割かれながらも感じたのは、日本だけでなく世界中で地球温暖化による気候変動により多くの災害が起こっているという事実です。トランプ大統領などは温暖化は温室効果ガスのせいではないなどと言い、積極的に対策をとる方向に進もうとしませんが、アマゾンやオーストラリアの森林火災の映像などを見るたびに本当に地球の未来を案じざるを得ません。

ここへきて自然は急速に変化し牙をむいてきたように感じます。気候変動はきつと今年も地球のあちこちにさまざまな災害をもたらすことでしょう。現在私たちが行っているCO₂削減の対策では追いつかないのでしょうか。スウェーデンの少女グレタ・トゥーンベリさんの言うように、金もうけや経済成長だけを目的として過ごしてはならないということ、すべ

ての人がもう一度立ち止まってしっかりと考え直すべきなのではないでしょうか。彼女の主張を鼻で笑う為政者もいるようですが、それなら正しい科学的根拠をしっかりと示すべきだと思います。真実をねじ曲げることなしに。

今、それではこの茂原市において何ができるかと言えば、まずは身近なところから、ごみの分別などをより徹底しごみを減らす、省エネの工夫や方法の市民への周知などということからスタートし、温暖化対策を市民一人ひとりが自分のこととして考え、CO₂を減らすことにより真剣に取り組んで行くということではないでしょうか。頭では分かっているけれども実行することは意外に難しいものですが。もちろん市として何ができるのかを模索していく必要もあります。つまり、災害が起きた時の対策のみならず、それをいかに起きないようにするかを考えていくということ。子どもたちの将来のために。さて、このところずっとこ

の欄では台風の災害について書くことが続いております。災害はあつてはならないことですが、いろいろな場面で人と人のつながりの大切さを感ずることもありました。いざというときにどれだけ周りに良き協力者がいるかということはやはりトップにとつては大変重要なことであると身に染みて思っております。

例えば今回の災害ごみの置き場所については、沢井製薬さんに大変お世話になりました。またそのごみの片付けは茂原市では想定外に早く進みましたが、千葉県産業資源循環協会(※)の方々のお力をお借りしたことをここに申し添えたいと思います。それがなくてはまだまだ2年強はかかったことでしょう。素晴らしい協力者たちに心から感謝いたします。

今年、東京オリンピックが開催されます。より明るい年になることを願いながら今年も肅々とやるべき課題に取り組んでいこうと決意を新たにしております。

※千葉県内の産業廃棄物処理業者等が会員となり、災害発生時には災害廃棄物処理の支援を行っている。